

香取遺産

vol.152

一ノ分目 境宮神社

「小見川は雨だが、佐原では大雪だった」

「佐原は晴れたが、小見川は雨だった」

地元での話や、実際に移動してみて感じたこととはないでしょうか。こうした話では、国道356号線を移動中に、大倉地区付近で変化を感じる人が多いようです。

「千葉県の本編3千葉県の気候・気象」によると、県内の気候は上図のように区分されます。香取市に当てはめると、佐原、栗源、山田の西側がIV、小見川、山田の東側に加え北部がVに相当するでしょうか。各気候区の説明は次の通りです。

IVは、県内で最も内陸的な気候で、降水量は比較的少なく、冬の気温は低い。北西・北・北東の風が強く、耕地や宅地の防風林・防風垣が多い。台地上は秋から冬にかけて霧が出る。

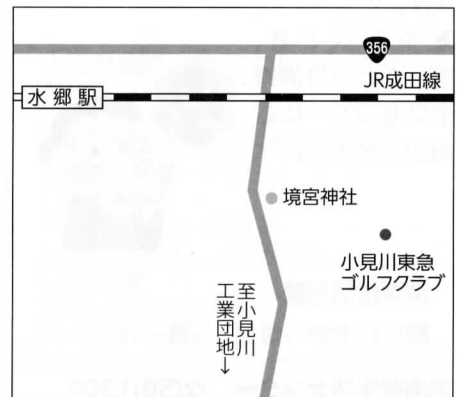
一方でVは、気候全般については千葉・木更津周辺のII1(冬は北寄りの風が強く、比較的降水量が多く、気温も高め)と大差ないが、冬はやや暖かく、年降水量もII1よりやや多い。晴天の時には海風が発達する。台風来襲時は風が強く、塩害が発生しやすい。

他の気候区の特徴は割愛しますが、おおむねIVは内陸性、Vは海洋性の気候となり、香取市内では対照的な気候が同居していることが分か

千葉県の気候区分



▲新築した社殿が鎮座する境宮神社



ります。市内東部と北部が海の影響を受けるのは、東部は海からの距離が近いため、北部は、かつての海を干拓したことと標高が低いためと考えられます。大倉近辺で気候が変わるという話も、実際に気候の境目となっており、裏付けが取れるのです。

また、この境界線上にあたる一ノ分目地区の台地上に、境宮神社があります。かつての香取と海上の境界として置かれるようになったとも伝わる神社です。歴史的にも地域の境となっていることになりました。平成27年に社殿などが焼失しましたが、再建にける住民の強い思いと努力が形になって、平成29年に新築しています。

毎年3月27日より前の日曜日(今年は3月24日)には、拜殿で昼過ぎから十二面神樂が奉納されます。地域だけでなく気候の境となっているこの神社に思いをはせながら、社殿と供に一新した用具で魅せる神樂を見学してみたいかがでしょうか。

園生涯学習課

☎1224